

未来に誇れる
西宮をつくるために。

西宮市議会議員

田中まさたけ

正 剛

市政・市議会報告



「お役所仕事」との闘い

縦割り行政、他人事の対応、遅い意思決定、場当たり的な行政運営、事業のやりっ放し等々。

「やらない理由」を「できない理由」に代え、市民の切実な課題に向き合おうとせず課題を放置する市役所。^{おかげ}

これら「お役所仕事」は将来にツケを残すとともに、住民が「住んでよかった」と思える街の姿から遠ざけます。

私は、本会議において「やるべき根拠」と「できる方法」を提示し、「お役所仕事」と闘ってきました。

市民の声に基づいた政策を実現するために存在する市会議員には、「お役所仕事」に立ち向かう覚悟が必要なのです。

政策のゆくえ

市立中央病院と県立西宮病院の統合

兵庫県知事と西宮市長により、市立中央病院と県立西宮病院の統合再編に向けた基本協定が締結されました。アサヒビール跡地に6年後の開院を目指して動き出します。

■赤字垂れ流しの市立中央病院は清算・閉院へ

現在の市立中央病院は、県立西宮病院との統合が実現すると、借金等を清算して閉院となります。そして、新統合病院は県立となることから、基本的に公立病院事業は県に委ねられます。

市立中央病院の閉院に伴い、

- 市からの長期借入金約34億円の債権放棄。
- 銀行からの借金返済のために、今後4年間で約31.5億円の市税を投入。
- 退職金の支払いに約7億円。

が必要となる見込みであることを、平成30年9月議会で明らかにしました。

■統合新病院建設に向けて準備に入ります

アサヒビール西宮工場跡地に、600床規模の病院を建設するための準備が進められます。新病院建設に要する市の負担は61.6億円と試算されており、現在

の市立中央病院の閉院に伴う清算費用と合わせると約100億円の市税を要する見込みです。これらを20年返済の借金で対応し、県立病院に対して運営費負担として求められている、年間約4.6億円の市税投入と合わせると、年間約10億円を要することになります。この負担の有無による市民の医療環境への影響を説明し、最終決定する前に市民の意見を聞く機会も設けるよう求めてています。

■調整結果で示された市の費用負担

	用地取得	建物整備	機器購入	合計	
病院整備費用	55億	218億	70億	343億	
税負担	国(地方交付税)	22億	79.2億	28億	129.2億
	県	0	44.6億	12.6億	57.2億
	市	33億	22.3億	6.3億	61.6億

※金額の100万円以下は四捨五入。

(単位:円)

行動する政治。提案する政治。実現する政治。

常に市政の現状を報告するためにチラシを作成・配布し、意見交換会を開催することで市の課題を把握します。そして、市民からのご意見に基づいて、将来を見据えた政策を議会で提案します。しかし、一部の市職員による「お役所仕事」や抵抗により、すんなりとは実現しません。そこで、市職員を説得するための合理的な根拠を集め、実現するために議会で交渉し、その状況を報告します。このような当たり前の政治を続けていくことが、未来に誇れる西宮をつくることができると信じて、これまで活動してきました。

災害対策

部活動、学校行事、スポーツ推進、災害時の避難所など、様々な用途で利活用される学校の体育館には、早急にエアコンを設置すべきです。

■「できない理由」を「できる根拠」に転換する

昨年の夏は災害級の暑さでしたが、例外的に暑かったとは考えにくい状況となっています。そして、部活動や学校行事・集会、スポーツ推進や災害時の避難所など、様々な場面で利活用される学校体育館にも、エアコンを設置する必要がある程に気候が変動しています。一方で市は、災害時の避難場所に指定している学校体育館へのエアコン設置に消極的な姿勢を示しています。そこで、市内全ての小・中学校（小学校12校、中学校6校、小中一貫校2校）の体育館にエアコンを設置している箕面市を視察した結果、西宮市が挙げていた「できない理由」をすべてクリアできることが分かりました。

① 設置費用の財源確保

総務省の制度（緊急防災・減災事業債）を活用すれば、7割が国の負担となり、市の実質的負担は3割に抑えられます。これにより、西宮市が試算した設置費用約27億円は、実質約8億円の負担に抑えられます。

② 保守点検や光熱費などの維持費

維持費（試算）年間約7000万円も、利用者負担により軽減することも可能です。また本市では、スポーツクラブ21の会員数の半数以上が屋内スポーツ種目の会員であり、主な活動場所は小学校の体育館です。中学校では部活動が行われており、需要は非常に高く、普通教室に設置したエアコンよりも稼働率が高くなることは明白です。

③ 構造上の課題

写真のとおり、室内機は2階の通路上部に設置し、送風機を用いて全体に涼しい空気を送る方式を用いることで、体育館での活動に支障をきたすことはありません。



④ 体育館全体を冷やすことができるのか

箕面市では、大阪北部地震の際に学校体育館が避難所となり、「心地よい」程度の涼しさであったとの評価だったそうです。十分です。

■市職員の意識によってまちづくりに大きな差

平成30年12月議会において、これら「できる根拠」を示し、学校体育館を管理する教育委員会に見解を質問したところ、「体育館へのエアコン設置は過剰投資である」と回答しました。防災担当の回答も、「災害が起こってエアコンが必要となれば、国が手配してくれる」旨のお粗末な内容でした。市民1人あたりの費用負担を計算すると、設置費用の借金を10年で返済すれば月額約46円、維持費の負担が月額約12円となります。**月額58円の負担で、災害時の避難者や部活動、スポーツクラブ21の活動時の熱中症対策が可能となると考えても過剰投資なのでしょうか。**私は、生徒児童の安全の観点からも、早急に実施するべきであると考えます。さらにその後、西宮市議会で**エアコン設置を求める決議が全会一致で可決され、平成31年度予算に調査費が計上されました。**職員の意識、姿勢によって、まちづくりに大きな差がつくことを、改めて実感しました。

道路整備

都市計画道路「門戸仁川線」の国道171号側の事業着手に向けて、整備費が予算に盛り込まれました。北側の事業化に向けた調査・準備も求めています。

■都市計画道路の整備に向けた交渉による課題

整理を急ぐべき

70年以上前に計画された都市計画道路で、未だに事業化されていない箇所が市内各所にあります。そこで、昨年12月議会では、**県道門戸荘線と市道3路線が交差する5叉路の車両交通量の減少が期待される、都市計画道路「門戸仁川線」について取り上げました。**この計画は、墓地の整理や阪急今津線との立体交差も必要となることから、関係者との協議によって課題を整理するとともに、必要財源を算出するなど、事業化に向けた準備を進めるよう提言しました。平成31年度予算では、門戸仁川線南側（国道171号側）の設計費が計上されていることから、北側についても対応が急務です。

■計画を放置する「お役所仕事」が問題

これまで、人口減少社会を見据え、事業化の見込みのない道路計画を見直し、代替策を検討するよう

求めてきました。平成27年度には、計画は見直されました。歩行者や自転車の安全対策に関する代替策が計画されていないなど課題が残されています。また、平成25年6月議会で取り上げた**大浜老松線（雲井橋通り）**については、提案した応急対策として、車両の相互通行が困難な箇所が拡幅されました。一方で、平成23年12月議会で取り上げた**西田公園北側の東西道路（市道西第706号）**の安全対策については、平成31年度によく予算化されました。実現までには多くの時間を要します。

市は、日々危険を感じている住民と異なりどこか他人事です。**計画していても、沿道住民等関係者との交渉はおろか情報提供もせず放置し、住民や議会からの指摘がなければ、課題を先延ばしにしよう**とします。今後も、住民の皆様からの情報に基づいて、粘り強く、交通安全対策に取り組みます。

提案した政策が一步前へ

提案とともに実現する政治が重要。 自転車に関する政策提案がようやく新年度予算に盛り込まれました。

安全・安心で快適な自転車利用環境を整備するため、「自転車利用環境改善計画」の策定費用が、平成31年度予算に盛り込まれました。

西宮市では、自転車の利用環境の整備に関する対策が場当たり的となっていました。そして、これまでの一般質問において、

①駐輪場の計画的な整備のための財源確保と放置自転車対策の強化

②計画的な自転車と歩行者の安全対策の必要性を指摘してきました。しかし、他人事で消極的な市の姿勢に大きな変化は見られませんでした。そこで、**平成27年度には「自転車の交通安全対策」が建設常任委員会の施策研究テーマとなり、自転車利用環境に関する総合計画（駐輪対策、自転車走行ネットワーク整備、マナーの周知など）を策定するよう提言しま**

した。それから3年越して、新年度予算に必要な費用が盛り込まれた形となり、提案した政策が一步前進しました。

また、昨年12月議会では、カーブミラーの設置基準について取り上げました。住民によるカーブミラーの設置要望がなかなか実現しない原因は、**カーブミラーが自動車同士の安全確認を目的に設置されている**ことにあります。そこで、**歩行者や自転車が安全確認をする視点を加えて設置することで安全対策を強化する**よう提言しました。今後、策定する計画に、自転車の安全運行につながるカーブミラーの設置についても盛り込むべく、議論してまいります。



医療・福祉・防災・防犯・交通安全。安心・安全のまちづくりは、「住んでよかった」街に不可欠の取組みであり、他人事のお役所仕事を放置していては実現不可能です。

■安心・安全な「健康都市」の創造

皆様から寄せられるご意見の多くは、安心・安全に関する内容が多く、医療・福祉、防災、防犯、交通安全など多岐に渡っています。

高齢化が進み、人口減少社会を迎えた昨今、住民が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めるためには、これまでの高度経済成長を前提とした様々な政策・制度を見直し、再構築していく必要があります。中面に掲載のとおり、道路整備などハード面の対策を講じる必要がある場合は、さらに多くの時間と財源を要します。これらは、時間がかかるからこそ、大至急着手しなければなりません。皆様の声を聞き、現場主義を貫き、市に対して新たな制度や政策における発想の転換を提言し、安全に、そして健康に暮らせる「健康都市」を目指します。

一 安心・安全に関する重点政策一

■介護予防事業の拡充と実効性の向上

■地域包括ケア（医療・介護・生活支援等の連携）

体制及び地域福祉の充実によって高齢者が住み慣れた地域で暮らすことができるまちの実現

■スポーツ環境・政策の充実による「健康都市」の実現／学校体育施設の計画的な環境改善と利活用の推進

■交通環境の改善（歩行者の安全確保・自転車交通の安全対策・公共交通の利便性の向上）による住みよい住宅都市の実現

■官民協働による公園や公道への防犯カメラ設置の推進

■道路・橋梁・水道・下水道の適正管理と計画修繕による災害に強いまちの実現

■熱中症対策や風水害対策等身近な生活での危機管理対策の推進



約束のかたち：「市政・市議会報告」の発行の継続、「市政報告会・意見交換会」の開催

このチラシは、単なる広報やPR誌ではなく、市民の声を聴くきっかけとなる広聴のためのチラシでもあり、選挙前だけではなく定期的に作成し、今回で55号となりました。このチラシを見て、掲載内容以外のことも含めてご意見を寄せてもらっています。すぐには実現できない内容も多いですが、だからこそ、今すぐ着手しなければならないこともあります。諦めずにご意見や情報をお寄せ下さい。そして、「市民との対話なくして真の政策なし。」との信念のもと、意見交換会も継続して開催してまいりたいと考えています。

私の過去のチラシはWEBサイトからもご覧いただけます。（お届けもしています。）

発行責任者 田中正剛 たなか まさたけ profile

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業 /元市議会議員事務所に4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選（27歳）

■役職:民生常任委員会委員長 ■政党:自由民主党(政新会幹事長)
■市議会での主な役職:厚生常任委員会委員長(1期3年目)、西宮市監査委員(2期1年目)、病院問題特別委員会委員長(3期1・2年目)、阪神水道企業団監査委員(3期3年目)、西宮市議会副議長(3期4年目)、建設常任委員会委員長(4期2年目)、第88代西宮市議会議長(4期3年目)



西宮市議会議員
田中まさたけ
西宮市でも、子どもが減少し続けています。
西宮市では、子育て支援策として、子育て世帯の扶助金を支給する制度があります。また、子育て家庭に対する支援策として、子育て相談室を設置し、専門家による相談支援を行っています。

西宮市議会
西宮市議会は、西宮市議会議員の議決権と監督権に基づいて、西宮市の政策決定や監査機能を担う議院です。議院運営や議会運営に関する議論や監査活動などを実施しています。

西宮市議会
西宮市議会は、西宮市議会議員の議決権と監督権に基づいて、西宮市の政策決定や監査機能を担う議院です。議院運営や議会運営に関する議論や監査活動などを実施しています。



■52号：西宮の未来に対する市議会の責任

市役所改革、病院統合問題等について掲載。

■53号：西宮の財政 一決算の移り変わりー

西宮市の財政の推移について掲載。

■54号：西宮市でも子どもが減少し続けています

少子化対策、職員定数問題等について掲載。

←スマートの方は、こちらもご覧ください。